

6. トランプ政権の国防戦略



米トランプ政権は、2018年1月、前年に出した国家安全保障戦略に基づいた国防戦略を発表した。「米国の軍事的競争の刃を研ぐ」と副題が付けられているように、「国防戦略」は「テロリズムではなく国家間の戦略的競争が、いま米国家戦略の第一義的関心事である」と打ち出した。競争の相手として中国とロシアを名指ししている。文書全体は非公開であり、要約のみが公表された。

❖ アメリカ合衆国の2018年国防戦略の要約(抜粋) ❖

2018年1月19日

はじめに

(略)

今日、我われは、戦略的な萎縮の時代から浮かび上がろうとしており、我われの競争力における軍事的優位性が弱体化していることを認識している。我われは、長年にわたるルールに基づいた国際秩序の衰退を特徴とする世界的な混乱の増大に直面しており、混乱は近年の記憶にないような複雑で不安定な安全保障環境を生み出している。テロリズムではなく、国家間の戦略的競争が、現在、米国の国家安全保障における主要な関心事である。

(略)

戦略的環境

国防戦略は、自由で開かれた国際秩序に対する公然の挑戦と、国家間の長期間にわたる戦略的な競争が再び出現したことに特徴づけられる世界の安全保障環境が、日々複雑さを増しつつあると認識する。このような挑戦に対処するには、我われが直面する脅威を適切に評価し、戦争の性質が変化しつつあることを認識し、国防総省の業務のあり方を転換させる必要がある。

米国の繁栄と安全保障に対する中心的な挑戦は、我が国家安全保障戦略が修正主義国家とみなす国家による長期的で戦略的な競争の再出現である。中国とロシアが、他国の経済的、外交的及び安全保障上の決定に対する拒否権力を獲得し、自国の権威主義モデルに沿った世界の形成を目指していることがますます明らかになりつつある。

中国は、インド太平洋地域において中国に有利な秩序を強制的に近隣諸国に再構築させるために、軍事力の近代化、影響作戦及び収奪的経済を活用している。中国は、全国家的な長期戦略による権力を行使し、経済的及び軍事的成長を続けつつ、近い将来におけるインド太平洋地域の覇権を目指し、また将来は地球規模での優位を確立し米国に取って代わることを目指した軍の近代化計画を推進し続けるであろう。本戦略の最も遠大な目標は、2国間の軍事上の関係を、透明性と不可侵の道に向かわせることである。

同時に、ロシアは、NATOを打破し、欧州と中東の安全保障と経済上の構造を自国に有利なものに変えるために、周辺国の政府、経済、及び外交上の決定において拒否権力を手に入れようとしている。ロシアがジョージア、クリミア及び東ウクライナにおける民主的プロセスの信頼性を損ない覆すた

めに新しい技術を使用していることだけでも懸念を引き起こすのに十分だが、それにロシアによる保有核兵器の拡大及び近代化が加わると、ことの重大性は明白である。

戦略環境における別の変化は、回復力はあるけれど、弱体化しつつある第2次世界大戦後の国際秩序である。第2次世界大戦においてファシズムが打倒された後の数十年の間、米国と同盟国及びパートナー国は、侵略と強制から自国の自由と国民をよりよく保護するため自由で開かれた国際秩序を構築した。第2次世界大戦終結以来、現行国際秩序は進化し続けているが、米国の同盟国及びパートナー国とのネットワークが世界規模の安全保障のためのバックボーンであることに変わりない。中国とロシアは、現在、現行国際秩序の恩恵を利用しつつ、同時に秩序の内部からその原則と「交通規則」を骨抜きにして現行国際秩序を弱体化させつつある。

北朝鮮やイランなどのならず者政権は、核兵器の追求、またはテロへの支援により、地域を不安定化させている。北朝鮮は、核、生物、化学、通常、非通常の全てをおり混ぜた兵器を追求することによって、また、韓国、日本及び米国に対する強制力を獲得するため弾道ミサイル能力を高めようとすることによって、政権の生き残りを保証し、影響力を増大しようとしている。中東においては、イランが、国家支援のテロ活動、拡大しつつある代理勢力のネットワーク及び自国の目標を達成するためのミサイル開発計画を使い、地域での覇権を求め争う一方で、影響力と不安定の弧を主張しつつ、周辺国と競っている。

(略)

国防総省の防衛目標

国家安全保障戦略を支援しつつ、国防総省は、米国本土を防衛し、世界において傑出した軍事大国であり続け、勢力の均衡が我が国に有利であり続けることを確実にし、我が国の安全保障及び繁栄を最も助長する国際秩序を推し進める準備を整える。

中国及びロシアとの長期的な戦略的競争が、国防総省にとっての主要な優先課題であり、米国の安全保障と繁栄に対して両国が今日もたらしている脅威の重大さ、及びこうした脅威が将来増大する可能性があるため、投資を増やし維持することが必要である。同時に、国防省は、北朝鮮やイランなどのならず者政権を抑止して反撃し、米国へのテロリストの脅威を打破し、資源的に持続可能な方法に移行しつつ、イラク及びアフガニスタンにおいて米国の利益を確固としたものにするための努力を維持する。

防衛目標は、以下の項目を含む。

- ・米国本土を攻撃から防衛すること
- ・世界及び要となる地域の双方において、統合軍の優位性を維持すること
- ・敵が我が国の死活的利益に侵略するのを抑止すること
- ・国内の関係省庁のカウンターパートが、米国の影響力と利益を促進することを可能にすること
- ・インド洋・太平洋地域、ヨーロッパ、中東及び西半球において、米国にとり有利な、地域における勢力の均衡を維持すること
- ・同盟国を軍事的侵攻から防御すること、強制に対抗してパートナー国を支援すること、及び共通の防衛に対する責任を公平に分担すること
- ・敵国及び非国家主体による大量破壊兵器の入手、拡散または使用を説得して断念させ、防止または抑止すること
- ・テロリストが米国本土及び米国民、海外の同盟国とパートナー国に対する国外での作戦行動を指示または援助するのを防ぐこと
- ・公共の領域が自由で開かれていることを確実にすることに関する国防総省における考え方、文化及び管理体制を変革しつつ、引き続き低コストで迅速に成果を達成すること、
- ・国防総省の業務を効果的に支え、安全保障及び支払い能力を維持する、比類ない21世紀の国家安全保障上のイノベーション基盤の拠点を確立すること。

戦略的アプローチ

長期間の戦略的競争においては、外交、情報、経済、金融、インテリジェンス、法の執行及び軍事という、国力における多数の要素を切れ目なく統合することが必要である。他のどの国よりも多く、米国は、我われが有利であり競争相手が強さに欠ける場所において競争相手に挑戦するイニシアチブを握り、競争力のある空間を拡大することができる。より強力な軍隊、強固な同盟及びパートナーシップ、米国流技術革新、及び結果を出す文化が、決定的かつ持続的な米国の軍事的優位性を生み出すであろう。

(略)

戦略的には予測可能、作戦上は予測不可能に

長期的な戦略的競争相手を抑止する、または打ち負かすということは、前回の国防戦略において焦点であった地域的な敵を抑止する、または打ち負かすこととは根本的に異なる課題である。米国の強さと同盟国との統合された行動は、侵攻を抑制することに対する米国の本気度を示すだろう。しかし、米国のダイナミックな軍の使用、軍事的態勢、及び軍事作戦には、敵の決定者にとっての予測不可能性を取り入れるべきである。競争相手を巧みに不利な立場に置き、彼らの努力を妨げ、米国の選択肢を広げる一方で、競争相手の選択肢をなくし、かつ、彼らを不利な条件下で紛争に対峙せざるを得ないようにすることで、同盟国及びパートナー国とともに、米国は彼らに挑戦する。

(以下略)

ジム・マティス

出典:米国防総省HP

<https://dod.defense.gov/Portals/1/Documents/pubs/2018-National-Defense-Strategy-Summary.pdf>

アクセス日: 2020年3月29日